

2008年武漢市民の所得及び消費の調査：一人当たりの年間可処分所得約 17,000 元 (238,000 円)

先日、武漢市統計局は 500 戸の武漢市民にサンプリング調査を行った。調査の結果によると、2008 年、都市部住民一人当たりの可処分所得は 16,712.44 元 (233,968 円) で、昨年と比べ 2354.8 元 (32,956 円) 増加し、増加率は 16.4% であった。また、物価指数を除く実際の増加率は 10.1% であった。

自営業者所得の伸び幅が最大

昨年、武漢市で展開された「市民創業活動」が目覚ましい成果を挙げた。自営業者や民間経営者の経営収入が急増し、都市部住民一人当たりの営業利益は 1,373.26 元 (19,222 円) で、去年と比べ 933.85 元 (13,062 円) 増加し、去年の 2.1 倍になった。

住民家庭財産所得が急増 世帯あたりの平均年間所得急増

調査結果によると、住民の家庭財産の貯蓄と投資ルートの多様化に伴い、住民の家庭財産所得が大幅に増えた。2008 年都市部住民家庭一人当たりの財産所得は 249.84 元で、去年と比べ増加率は 74.2% であった。

食品支出の増加

2008 年、武漢市都市部住民一人当たりの支出は 11,432.97 元 (160,048 円) で 2007 年と比べ 832.97 元 (11,648 円) 増え、増加率は 7.9% であった。2008 年以來、武漢市の食品価格は急激に上昇しており、特に食用油類、肉類、水産品類の価格が急速に上昇している。これによって、住民の食品消費支出も増加につながったものとみられる。武漢市都市部住民一人当たりの食品支出額は 4,880.31 元 (68,320 円) で、2007 年と比べ 514.03 元 (7196 円) 増加し、増加率は 11.8% であった。

「香り満点」、大分緑茶入選「美食と美酒」雑誌

「美食と美酒」という雑誌は「時尚 Trends」出版社系列の全国雑誌であり、国内向けに、世界各地の美食と洋酒をはじめ、健康食品・飲料とリラクゼーションに関する知識を紹介する流行誌

である。2009年1月の雑誌に農協九州大分緑茶が「最良の香りのお茶」として、掲載された。大分緑茶は「自然清雅、緑茶の新鮮な香り」、「海苔の味を含むすっきりした味」「薄甘い後味がある」として、瓶詰め緑茶の中では上等品であると好評を得た。